

感動の成人式を支えた3人にその思いを聞く



市成人式実行委員会委員長
岡元貴子さん
＝水沢区真城が丘二丁目＝

一丸となって進んだ実行委員の取り組み

大好きな地元への感謝の気持ちを形で表したくて、実行委員に応募しました。中学校1年生のときから成人式を手伝っていて、活躍する先輩の姿を見てきたことも大きな理由になります。

実行委員会は、昨年の9月から、10人で活動をスタートしました。活動を広げるために知人に声掛けをして、最終的には16人に増やすことができました。東京や仙台に住んでいる委員もいましたが、毎月行われる打ち合わせのために帰省して参加してくれました。

最初は、お互いに初対面ということも

あつて発言も多くありませんでした。でも、共通の話題などで徐々に打ち解け、一人一人が自分の意見を出し合えるようになりました。「実行委員で何かアクションをやろうか」「新成人が登場して家族へメッセージを贈っては」など、実現しなかった部分でもいろいろ面白い案が出されました。学校のクラスみたいな雰囲気だったと思います。

成人式当日は、委員全員が、ステージ上でそれぞれの役割を果たすことができました。こうした活動をやってきて本当に良かったと思います。

新成人と家族のこころをつなぐ道しるべに

「家族からの手紙」では、締め切りを過ぎても約1000通分の手紙が届きません。8人の課員全員で手分けして電話かけを行いました。「まだ開けてなかった」「何を書くか悩んでいる」など反応はさまざまですが、電話でお話したほとんどの方が手紙を寄せてくれました。

地味で大変な作業かもしれませんが、遊びたい盛りなのに、ボランティアで打ち合わせに来る実行委員たちの活発な意見交換を聞いていると、頑張りに応えなければという気持ちになります。また、式の当日、受け付けで渡される封筒

の中に手紙が入っていると、新成人はうれしそうな顔を見せてくれます。できるだけ多くの新成人にそういう気持ちを味わってほしいと願っています。

テレビで放映されたこともあって、一般の方から「感動的でいい成人式やっているんだね」という声をいただきました。ほかの市町村からも、内容に関する問い合わせの電話がきています。昨年は成人式大賞の貢献賞を受賞しました。新成人やその家族の皆さんが形づくる奥州市の成人式は、そういう評価をいただける素晴らしい式だと思えます。



市教育委員会事務局生涯学習課
千葉一貴主任

手紙を通じて家族の愛情に気付いてほしい

旧水沢市時代から手紙の朗読者の出演交渉や記念行事の司会などを担当しています。出演交渉は電話ですが、ときにはご自宅に伺ってお願いすることもあります。最初は固辞していた方も、出演後は「手紙を読めて良かった」と言われます。何よりも新成人が、家族の愛情に気付くことが重要だと思います。

家庭は人をつくる源。この成人式が少しでも家族や親子の絆を深めていくことにつながればうれしいです。心がすれ違ったまま日々の生活に追われていた家族には、手紙を通して仕切り直す

きっかけになればとも思います。

荒れる成人式が報道されるようになり、新成人の興味を引こうとするイベント形式の式典が開催される中、“人間愛を届けたい”という正攻法でスタートしたこの企画が果たして若者たちに受け入れられるか不安はありました。しかしながら、世代や年齢に関係なく本物はしっかり伝わりました。最初ざわついていた会場も朗読が始まるとシーンとなります。新成人の皆さんには、心の中に入ったものを次世代につなげてほしいと願っています。



市青少年育成市民会議事務局員
大村千恵さん

思い出に残る感動の式へ 成人式誕生までの軌跡

夏か冬か 開催時期の問題

高い評価を受けている奥州市の成人式ですが、現在の形がすんなりと出来上がったわけではありませぬ。そもそも成人式は、合併前の協議で「合併後、速やかに統一する」という約束が交わされていきました。旧市町村ごとに行われていた5つの成人式を1つにすることが決まっていたのです。

統一に当たって意見が割れたのが、開催時期の問題です。水沢では冬、それ以外の地区では夏と、まったく異なる時期に開催していたからです。夏と冬では、集まりやすさや服装、本来の開催意義の面で、さまざまな見方がありました。

そこで市教育委員会では、どのような形が望ましいのか、2度にわたるアンケートを実施し、開催案への意見を募集しました。新成人や市民ら2400人からいただいた貴重な意見を基にして、平成20年2月、冬に成人式を開催することを決定しました。

自分たちの手で式を 新成人が企画・運営

肝心の式の中身については、新成人による実行委員会に一任することにしました。「出席して良かった」と実感できる式にするため、参加者自身を中心と

う振り返ります。「どの地域の人でも楽しめるものが求められていました。思いを伝えるという素晴らしい内容はもちろん、その点からも全員が『家族からの手紙』の開催を希望しました」。こうして記念行事の内容が決まったのです。

新成人と家族をつなぐ 「家族からの手紙」

一方、市教育委員会では、10月下旬から「家族からの手紙」の準備に取り掛かりました。まず初めに、新成人の家族あてに手紙を書いてほしいというお願いの文書を送りました。

半分にも満たない400通だけでした。一生に一度しかない成人式。20年分の思いが詰まった手紙を何とか新成人に届けてあげたいという一心で、担当課の職員は、手紙が届かなかった家族へ電話をかけ、趣旨を説明しました。その結果、最終的に集まった手紙の数は約1000通。思いが家族に届いたのです。

フライト 【BRIGHT～恒星～】

太陽のように自ら光る星のこと。ことしの記念行事のテーマ。パンフレットは副委員長の堀籠あゆみさん（水沢区）がデザイン

